

いちい学級（特別支援教育）

1. 全職員による理念の共有 「特別支援こそ、教育の原点」

- この世に、誰からの支援も必要としない人はいません。
- 知らず知らずのうちに、誰かとつながり、誰かの支援を受けています。
- 例えば、世の中は右利きが多数派ですが、確実に少数派もいます。そこで、「はさみ」など、右利き用だけではなく、左利き用の道具があれば生活しやすくなるでしょう。右利きがいいとか左利きがいいとか、そういうことではなく、タイプが違うだけのことです。
- 一人一人の生徒が、その子なりの「自立」と「社会参加＝貢献」を目指していくことが重要であると認識しています。

2. いちい学級の運営

- 授業で関わる教師はもちろんのこと、全職員で励まし支援します。
- 2人の担任と支援員が「いちい学級の担任」というチーム意識で対応します。
- 指導する教材は、個々の能力に応じたものを工夫します。
- 小さな成功体験を積み重ね、褒めることで成長につなげていきます。

声掛け例

- ・できないことよりも、できていることに目を向ける。
(ここができていない → ここまでできていたね)
- ・やっていいことを伝える。
(うるさい → 声を〇〇くらいにしてくれるかな。
〇〇を視聴覚で表現する)
(今日はゲームなし →
この時間までに〇〇したら、ゲームしていいよ)
- ・ゲーム的要素を入れる。タイムレース性にする。「すごい。早くできたね」



いちい学級の皆さんは、働き者です！
毎日の掃除を頑張っています。

袋原中学校 校長 藤田義雄